



Jナース通信

2017年2月
第2号

小規模病院等看護ブラッシュアップ プログラムの作成にあたって

Jナース通信は、本学で取り組んでいる「地元ナース養成プログラム」の事業について、より多くの方に知って頂くためのもので、今回が2回目の発行になります。本号では、小規模病院等の看護師を対象としたリカレント教育である「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」を検討した経緯やねらいについて取り上げます。

まずリカレント教育事業展開の準備として、山形県内の200床未満の病院・診療所、高齢者施設等における看護職の管理者の皆さまにお願いし、現状や看護師に求められる能力等についてのお話を伺いました。

小規模病院等の利用者は、多くが地元の高齢者で、高血圧や糖尿病、脳梗塞の後遺症などの生活習慣病を根底に抱えながら、慢性的な経過をたどる方が多数を占めていました。認知症の利用者も増えており、療養型の高齢者施設でも、医療依存度が高い利用者が増加傾向にあります。老夫婦世帯や単身世帯が多く、利用者・家族間の意思疎通ができていないことや利用者のキーパーソンの多様化等で、個別のサポートの重要性が挙げられていました。

そのような現状で、小規模病院等の看護師は、医療依存度の高い高齢者の特徴を踏まえ、根拠に裏づけされた知識や技術を基に、高齢者の身体的変化に適応できる能力が求められていました。また、小規模病院等の看護師は、利用者の背景が多様化する中で、疾患に関するケアのみならず、個人または家族背景を含め地域の社会資源等も考慮しながら、利用者に関わる必要があります。地元住民と密着した関係を構築するため、コミュニケーション力は欠かせない能力でした。さらに、管理職の皆さまは、次世代のリーダーの育成も視野に入れ、チーム体制を理解してマネジメントする力や指導力を求めています。これらは、小規模病院等の看護師に限らず求められる能力ですが、特に小規模病院等のように限られた人数の中で働く看護師には、総合的に判断する能力や即決して対応する力が求められていました。何より管理職の皆さまは、小規模病院等の看護師が、その能力を有し日々看護を実践していることに自信をもつ必要性を挙げていました。

また、リカレント教育に対しては、根拠に基づいた知識を振り返る機会や新しい知見を得る機会になることを望まれ、プログラム開講時のICT活用に対するご要望も多くありました。

お聞きした内容を整理し、120時間の教育内容や方法を検討して作成したのが「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」です。日々の実践を振り返りブラッシュアップすることで、地元の医療福祉の担い手としての役割を再認識していただきたいと考えました。プログラムを受講した皆さまにいきいきと活躍していただき、地元ナースのロールモデルになっていただくことを狙っています。

お忙しい中、本事業にご協力いただいている小規模病院等の皆さまに感謝し、履修された受講生の皆さまがますますご活躍されることを願っております。



リカレント教育担当 井上 京子

プログラムの内容

- 看護の動向と課題
- 根拠に基づく看護
- 地域密着連携
- 看護研究の基礎

* 詳細な内容やシラバス等は、専用ホームページ (<http://jimoto-nurse.jp>) からご覧ください。



フォローアップ研修

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム修了生に対する研修プログラム

今年度より、小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの受講生のうち、120時間のプログラムを修了し、履修証明書を交付された修了生を対象に6月～12月にかけて8日間の日程でフォローアップ研修を実施しました。

【目的】

- ・地元関係機関と協議しながら、小規模病院等で展開する看護学実習を実施できる企画力と調整力を養う。
- ・小規模病院等における看護学生や新人看護師への指導力を培う。
- ・発展的な看護を実践する能力の向上を図る。

【内容】

- ・指導力スキルアップ研修
基礎看護技術（感染予防・体位変換等）、看護過程の展開等の教育方法
- ・看護研究ステップアップ研修
研究計画書の作成，研究方法の実践，研究のまとめと発表
- ・地元医療連携ブラッシュアップ研修
連携をすすめる上で必要なスキルのファシリテーション等



【研修生の声】

- ・学生と一緒に受講することで、どのような内容か、学生たちの状況を知ることが出来た。
- ・ブラッシュアッププログラムからの流れもあり、学びやすかった。
- ・研修の際、他病院との意見交換が出来る良い機会となった。
- ・学生の様子や講義内容を知ること、実習指導に結び付くと思った。
- ・小規模病院の役割と看護について、仲間と学びあうことが出来て良かった。
- ・病院として新人を育てることは必要だが、その新人を育てる指導者の教育の充実も必要であると感じた。この研修を受けたことが、自分が新人教育を行う上で役に立った。

- ・看護研究の時間がもう少し欲しかった。`最後の看護研究の時間は発表!!、と決めてもらった方が、集中的に学べるし、理解を深める意欲も出る。
- ・フォローアップ研修の目的のレベルが高く、自分にとって難しい内容だった。
- ・研究は1つのものを完成させて発表だとより学習の達成感があっという間かと思う。（大変ですが…）
- ・ファシリテーションの講義や演習は今までも受けたことはあったが、演習を何度も繰り返し行うことで、自分も磨けるし、コミュニケーション力もつけていけるのではないかと感じた。



地元で活躍する看護師



「地元を愛する看護師たちとともに」

公立高島病院 看護部長 竹田 和美

2年前、当院に山形県立保健医療大学の先生方が訪問された時のことです。たまたま、菅原先生から「山形発・

地元ナース養成プログラム」のお話を伺いました。

私は、日頃より、医療の高度化、専門化、そして少子高齢社会において多様なニーズに対応していかなければならない看護職にとって、現役の看護師のリカレント教育の重要性を強く感じていました。しかし、教育資源の乏しい小規模病院の中で、背景の異なる様々な職員に対する大人の教育の難しさを痛感していたのも事実です。当院の看護師に専門職として自信を持って生き生きと働いてもらいたいと思っていた私にとって菅原先生のお話は、渡りに船のようなものでした。

本事業に参加させていただき2年が経過しました。素晴らしい教育環境の中で、受講者たちは自分たちの役割を見出したようです。彼女たちは今、職場のJナースロールモデルとなり生き生きと働いています。医師不足に悩む当院において、町民の健康と生活の質を守るためには、現役の看護師の自立が大きな力に繋がると思います。ご指導いただいた先生方に改めて感謝申し上げます。

私は、福岡県大牟田市の出身です。姉が救急外科病院の看護師だったこともあり、高校時代から看護職を目指していました。地元の高校を卒業後、上京し、国家公務員共済組合連合会立川病院の看護学院に入学しました。ところが、19歳(2年生)の春に肺結核を患い、結核療養所で1年間の入院生活を余儀なくされました。退院後、両親は退校を進めましたが、私は復学し多くの人たちの励ましと支えにより何とか卒業できました。その後、神奈川県と同系列病院に就職し外科病棟看護師として2年間勤めました。結婚を機に主人の生まれ故郷である高島町に戻ることになり現在に至っています。高島病院に勤務して32年。私は正真正銘の地元人になりました。

当院は、高島町の保健・医療・福祉の拠点病院として急性期から慢性期まで幅広い患者層の包括的な医療を行っています。看護師は患者さんの一番身近な存在として、患者さんやご家族と向き合った看護を心がけています。

稼働病床数130床、看護単位3単位のこじんまりした病院ですから、他部門との連携もスムーズに行え、お互い補完し合いながら多職種協働のチーム医療を行っています。

また、今後ますます進むであろう超高齢社会を見据え、町と一体になり、医療と福祉の「顔の見える関係づくり」を積極的に行っています。看護師はその要となり、訪問看護ステーションや介護事業所、ケアマネ

ジャーとの連携を密にし、各種カンファレンスの開催や退院前訪問等、大忙しの毎日です。

看護学生の皆さんは、4年間の学部教育の中で、自分の進路を選択なさることでしょう。

新しい命が生まれる瞬間から、死を迎える時まで人生のさまざまな場面に関わるのが看護職です。人と向き合い、人とふれあい、一生続けられる職業です。最高の学び舎で、悔いのないよう頑張ってください。



第1回Jナースカフェを開催しました。

小規模病院等看護フラッシュアッププログラムや、フォローアップ研修を通して、小規模病院等の看護職の皆さんから、「今までは研修会に参加する機会が少なく、特に小規模病院等の看護職との交流がほとんどないので、情報交換の場がない。」との声がたびたび聞かれました。そこで、交流や情報交換の場を持ってみようと、Jナースカフェを企画しました。

平成28年12月19日(月)13:30~16:00に本学の第4講義室で開催し、13名の方が参加してくださいました。この日は、ワールドカフェ形式で「山形発・地元ナース養成プログラムに関わって」というテーマで話し合いました。

同じような環境の看護職と交流し情報交換が出来ることで、自施設の困りごとや課題解決の糸口が見つかる可能性がある、看護職同士のつながりや顔の見える関係を構築することは同じ地域で連携をとるためにも重要である、と考えています。

参加者の皆さんからの希望をとり入れながら、今後も継続して開催していく予定です。(次回は3月予定)

対象者：小規模病院等看護フラッシュアッププログラムの受講生
フォローアップ研修の研修生、人事交流研修者



参加者の声

- 県内の小規模病院で働く看護師の方々と、楽しく、時にはまじめな今の職場の現状を話せてとても有意義な時間でした。
- いろいろな情報交換が出来て良かった。共通の悩みを出し合うことが出来た。困っているのは同じなんだなぁという認識を持つことが出来た。元気をもらえました。
- 研修に参加して感じたことが、同じ考えを持っていて安心した。自分の思いも伝えられた。(病棟で伝えきれないことが言えてよかった。)
- 同じ規模の病院同士で意見交換、情報交換が出来て、大変役立ちましたし、自分のモチベーションも上げることが出来ました。

● 編集後記 ●

早いもので、今年度は事業の中間年度でした。振り返ってみると、いろんなことがありました。大変な事もありましたが、たくさんの出会いがあり、楽しい1年になりました。特に、現場の看護師さん達から、パワーを頂きました。来年度もこのパワーを糧に、頑張ります。次号もお楽しみに。(SS)

編集・発行



山形県立保健医療大学
看護実践研究センター

〒990-2212 山形県山形市上柳260番地
TEL/FAX 023-686-6614
<http://jimoto-nurse.jp/>
info@jimoto-nurse.jp